

令和3年度
学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時 令和3年6月12日(土) 午後2時55分～
2. 開催場所 中央医療技術専門学校 4号館3階 普通2.3合同教室
東京都葛飾区立石3丁目5番12号
3. 学校関係者評価委員定数 6名
4. 出席者 学校関係者評価委員
委員長 神田 吉也
副委員長 伊丹 重貴
委員 平野 雄二 柳田 智 近藤 昭夫

内部評価委員会
委員長 尾花 寛(学校長)
委員 横田 浩(参与) 小川 雅之(教務部長)
中島 正弘(教務課長) 河合 繁(学生課長)
池田 信昭(学校総務課長:事務長)
岸 千春(法人事務局次長:財務担当)

法人事務局
森重 美三男(理事長) 加藤 広宣(法人事務局長)
- 欠席者 学校関係者評価委員 菅 勝幸
5. 議 案
 1. 令和2年度学校自己評価報告について
 2. その他
6. 議事録署名人 伊丹 重貴 平野 雄二
7. 配布資料
 1. 令和2年度 学校自己評価報告書
 2. 応募数と入学者推移
 3. 入学から卒業・国家試験合格の推移
 4. 国家試験合格率
 5. 自己評価ポイント比較率
 6. 事業活動収支計算書
 7. 第26期事業報告書

議事に入る前に、森重理事長から挨拶があった。

昨年の6月にこの会議を開催致しました。あっという間に1年が経ちましたが、皆さんがご承知の通りこの一年は、コロナ禍に見まわれており、なかなか満足のいく学校教育が出来なかったのが現状であります。つい最近になって漸く本格的にワクチン接種が始まり、私も1回目の接種が終わりまして、再来週の金曜日に2回目の接種を受けることになっております。皆さんが接種され、来年は正常な会議が出来ればと思っています。

今日は、中央医療技術専門学校(立石校)の学校評価を皆様をお願いするわけですが、始めに私の立場で法人全体の事をお話させていただきます。

【理事長報告要旨】

○中央医療学園専門学校（荒川校）の事業譲渡について

2001年（平成13年）に開設した荒川校（柔整学科、鍼灸学科）は、養成施設の増加及び少子化の煽りを受けて十年来、生徒の確保が難しい状況にあった。

平成29年2月の理事会において、荒川校の撤退が決議されてから、教職員の雇用が継続される事業譲渡を模索してきた。

令和元年8月、大阪に本部を置く学校法人平成医療学園と事業譲渡契約を締結し、令和3年3月末で引継ぎをすることにし、準備を進めてきた。教職員の雇用契約は引き継がれたが、当初は荒川校の設置者変更及び、学校名変更の届出をしたものの、学校法人平成医療学園の認可要件が満たされておらず、令和3年4月1日現在認可されていない。

当法人の今後の方針は、4月1日に荒川校の廃止届けを東京都に提出しており、認可が下り次第、荒川校を廃校とし、学校法人平成医療学園に荒川校の土地・建物についての所有権移転を行う。

今後は、立石校の運営に力を注いでいくということになる。

との挨拶があった後、委員会成立事項報告を求めた。

学校関係者評価委員会成立事項報告（議事司会者の加藤広宣事務局長）

本日の委員会は、委員6名中5名出席しており、学校関係者評価委員会規程第7条1項に定める出席委員数を満たしており、学校関係者評価委員会が成立することを報告する。規程第8条により、委員以外の者に出席を求め意見を聞くということで、本日は学校内部評価委員7名が同席をする。

また、規程第10条には、委員会の事務は、本校の教務部において処理するとあるが、本日は、法人事務局で議事録を作成するのでご了承を願う。なお、議事録作成上、本日委員会の録音を行うとの報告があった後、神田委員長に議事の進行を依頼した。

神田委員長は議事に入る前に議事録署名人に、伊丹重貴氏と平野雄二氏を指名し、両名とも承諾し議事に入った。

神田委員長は、令和2年度学校自己評価報告書と添付資料(応募数と入学者推移、入学から卒業・国家試験合格の推移、国家試験合格率、自己評価ポイント比較表、事業活動収支計算書)の説明を内部評価委員会に求めた。

【令和2年度学校自己評価報告書】

1. 尾花委員長(学校長)より、令和2年度学校自己評価報告について、資料4の自己評価ポイント比較表を使用し、令和元年度と令和2年度でポイントの下がった項目に対し説明があった。続いて添付資料、応募数と入学者推移、入学から卒業・国家試験合格の推移、国家試験合格率について説明があった。
2. 岸財務次長より、事業活動収支計算書の資料について説明があった。

【質疑応答】

学校関係者評価委員はそれぞれ違った分野から委員をお願いしております。それでは、只今の令和2年度学校自己評価報告等の説明をうけて、ご自分の立場からの所見を含めご意見、ご質問を受けたいと思います。始めに、経営に関する有識者の立場からという事で伊丹社長いかがでしょうか。

(神田)

(質) 横浜で医療廃棄物を中心に扱う会社を経営しております。学校経営についての知識は生憎もちあわせておりませんが、一般的な会議としてお伺いします。資料2は、学生の進級率なのか、国家試験合格率なのか、お示しいただいた主旨が良く解りませんので教えてください。(伊丹)

(答) 国家試験合格率は、資料3に各年度の卒業生に対して国家試験合格が何%なのかをグラフで表示致しました。資料2は、入学してから規定の(昼間部3年、夜間部4年)期間で卒業し、国家試験に合格した割合をグラフで表示したものです。(尾花)

続いて、同じ教育機関にお勤めの柳田先生、如何でしょうか。

(質) 放射線学科の教授という立場から申し上げます。全体に本日提出された資料は見て分かりやすかったですが、いくつか質問を致します。

- ①学校自己評価報告書の項目中、教育理念・教育目標で、コロナ禍で病院見学を取り止めたとあるが、見学病院を事前に録画し、オンデマンド方式で配信することも可能ではなかったか。
- ②同じく学校自己評価報告書の項目中、学校活動の項目で、教員の学生評価について、学生が学校に集まる機会が少なくアンケートを採ることができなかった、とあるが、オンラインを活用してアンケートをとる事も可能ではなかったか。
- ③ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動において、外部から講師を呼ぶということもあると思いますが、学校内のFD活動はどのように行われているか。
- ④報告全体に、コロナ禍で予定行事や事業が出来なかったとあるが、オンラインの活用をもう少し積極的に考えなかったのか。
- ⑤最高学年に留年生が多いが、今年、当該留年生の臨床実習は免除になると思いますが、その場合の留年生の授業はどのように取り組んでいるのでしょうか。(柳田)

- (答) 病院見学は、去年は録画による見学は考えませんでした。今年も、各先生に病院内の録画等の資料をお願いすることを検討したいと思います。学生の教員評価アンケートに関しては、コロナ禍で実施出来ませんでした。FDに関しては、遅ればせながら、この5月に外部講師の講演会をリモートで開催しました。内部でのFD活動は行っていません。留年生は既に臨床実習の単位を取得しておりますので、新3年生が臨床実習に行っている期間、別の時間割を組んでいます。またそれ以外は、新3年生と同じ授業を行っています。(尾花)
- (質) 非常にいいと思います。内部FDですが、学校内には非常に教え方がうまい先生もいると思いますので、先生方同士で行うのも良いと思います。資料1の応募数は、推薦と一般の累計ですか。(柳田)
- (答) 応募数は累計です。(尾花)

続いて保護者の立場から近藤先生、お願い致します。

- (意見) 現在、娘が3年生でお世話になっております。今日の会議に出席するにあたって、子どもに授業のことや実習の事を聞いてみました。特に問題なく、順調に学校生活を送っていると申しておりました。心配なく思っております。(近藤)

それでは、実習病院の立場から平野先生いかがでしょうか。

- (質) 昨年、実習生徒と対話をする中で、学校に行けなくてどうなの？と聞くと、ほとんどの学生は不安を感じていました。不安を抱いたまま国家試験に臨んでしまったのかなと思います。授業はオンラインで行っているようですが、授業内容の聴講は1回で終わりなのか、何回も聞けるのかを伺います。(平野)
- (答) オンライン授業は、録画されており、再度視聴は可能になっています。去年は、最上級生には対面で授業を行いましたので、リモート授業が不安であったとは言い切れないと思っています。試験対策も最後は自分で勉強していかなければなりませんので、どれだけ学生の試験に対するモチベーションを上げるかがポイントになりますが去年はそれが出来ませんでした。このことが原因で国家試験が良くなかったと反省しています。
(尾花)
- (意見) 診療放射線技師養成に特化した専門的な学校なので、志を持った学生が志望し、入学してきます。従ってそれなりの国家試験合格者を出さないといけないと思います。国家試験の合格率を上げることによって、また、良い学生が入ってくると思います。(伊丹)
- (意見) 良い成績を残さないと、良い学生が入ってこない。国家試験合格率がいい学校は、それなりに良くなると思います。(神田)

以上の質疑応答の後、神田委員長の要請で、学校関係者は退室し、学校関係者評価委員で総評に入った。纏まった総評を、神田委員長より学校側に述べた。

【神田委員長総評】

学校関係者評価委員会として内部評価委員会から報告を受けました。昨年はコロナ禍でいろいろな制約があるなか学校側の努力によって、概ね良い運営がされていると判断します。

しかし、先ほども本会議で討議されましたように、国家試験合格率の低迷を学校関係者評価委員の総意として指摘致します。何らかの対応を考えて頂くことを強く望みます。

その中で、特に気になることは、今年は留年生が多いことです。留年生への対応に傾注していただくことを切にお願い致します。

また、FD(教員教育)では、学内でのFDを取り入れることを要望します。

以上の総評が神田委員長からあり、今後も、学校発展の為に努力して頂きいたとの総評があった。

委員長は、他に質疑の有無を諮ったが特になく、本日の学校関係者評価委員会を終了した旨を述べ午後5時5分に閉会した。

以 上

本議事録記載事項について、正確であることを証するため委員長及び議事録署名人各署名押印する。

令和3年6月12日

委 員 長 氏 名

議事録署名人 氏 名

議事録署名人 氏 名

以 上